

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 蒲郡市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊鉄タクシー株式会社	形原地区支線バス 左回りルートA (ユトリーナ経由なし)	利用増や収支率の改善に向けた期待が寄せられ、これまで通りぬりえ大会や公民館だより掲載、地区内回覧等各種の利用促進に取り組んだ。	A 計画通り事業は適切に実施できている。	B 数値目標は便当たり5.57人で設定。実績は3.8人/便であり、他のルートと比較して悪い。	当該ルートは、朝一番早い便。ユトリーナが開館していないため経由せず、利用者数が少ない。鉄道との接続利用による使い方をPR対応している。	
豊鉄タクシー株式会社	形原地区支線バス 左回りルートB (ユトリーナ経由あり)	同上	A 同上	A 数値目標は便当たり5.57人で設定。実績は6.4人/便であり、目標達成。	左ルートの2・3便で、利用の多い時間帯。事業を継続し、利用促進を進める。	
豊鉄タクシー株式会社	形原地区支線バス 右回りルートA	同上	A 同上	A 数値目標は便当たり5.57人で設定。実績は5.7人/便であり、目標達成。	右ルートの1・2便は利用の多い時間帯、3便は全体の最終便で最も利用が悪い(1.9人/便)。利用促進を進める。	
				事業全体の数値目標は、3事業合わせて5,150人と設定しており、5,124人で目標値には達していない。	継続した評価を行い、停留所ごとの乗降者数の評価による議論や乗車体験を促す利用促進策の実施、広告収入の拡大検討などを行う。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	蒲郡市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>第四次蒲郡市総合計画においてあげられた「子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系の確立」、「地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の形成」を目指し、公共交通体系を一体的に改善することを目標とした地域公共交通総合連携計画を平成26年3月に策定した。関連法の改正をふまえ、当該計画を見直し、蒲郡市地域公共交通網形成計画として平成28年3月に策定している。</p> <p>計画の中で位置付ける取り組みとして、「鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保と交通空白地の解消」、「交通空白地解消のための実験的取組等の実施」、「地域資源の活用・関係者間の連携強化による事業推進」、「公共交通の利用を促す働きかけ活動の実施」を想定している。</p> <p>これら取り組みを通して、交通ネットワーク網の維持確保を目指し、地域公共確保維持改善事業の支援を受けて、「交通空白地解消のための形原支線バス(フィーダー)」の運行を進める。</p>

中部様式1

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

蒲郡市地域公共交通会議

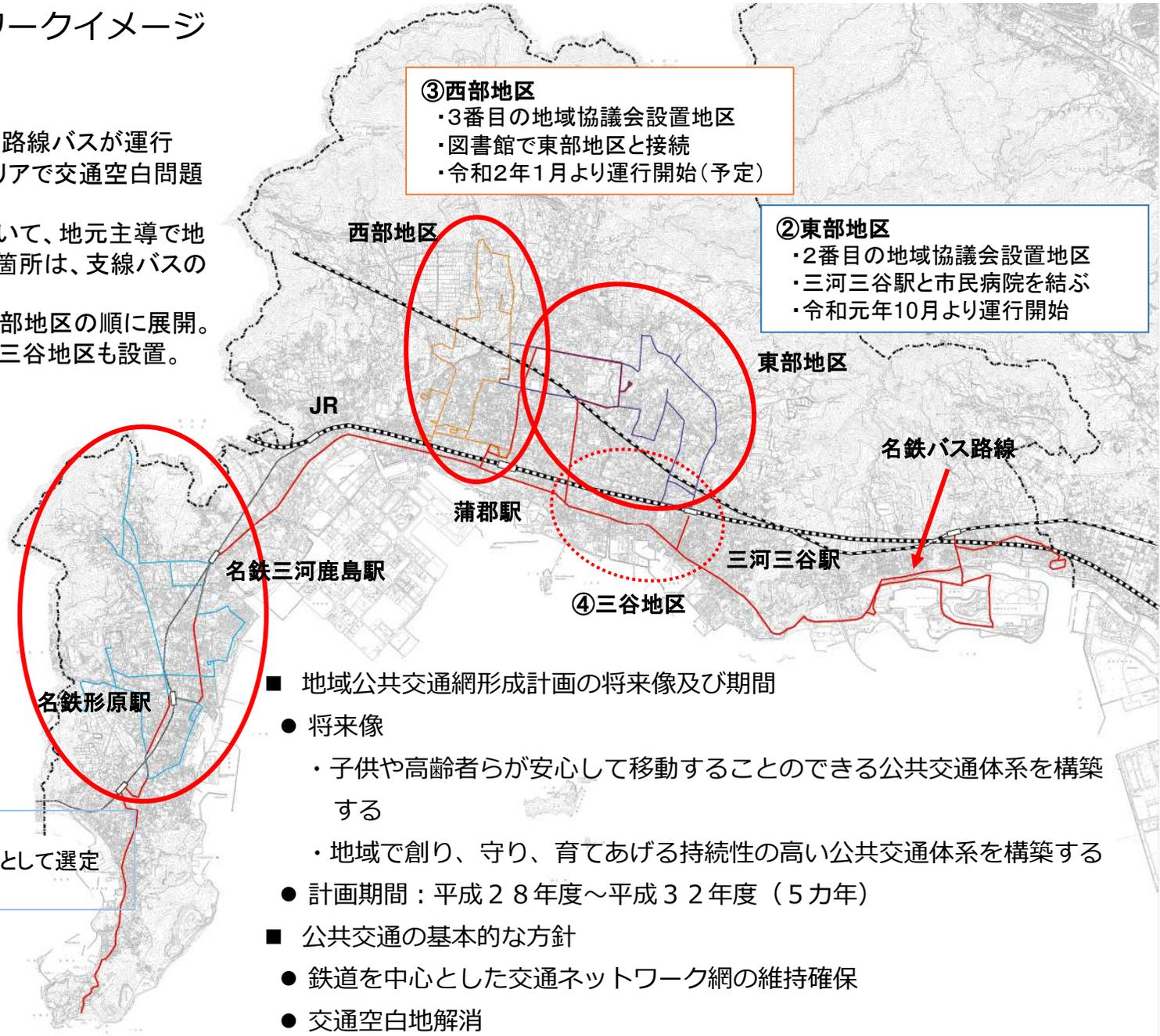
平成25年3月1日設置

フィーダー系統 平成30年6月20日 確保維持計画策定等

■ 公共交通ネットワークイメージ

蒲郡市全体の交通網

- ・平野部・臨海部に鉄道、路線バスが運行
- ・山間部を含むその他エリアで交通空白問題がある。
- ・交通空白問題地区において、地元主導で地域協議会が設置された箇所は、支線バスの検討・路線設置を行う。
- ・①形原⇒②東部⇒③西部地区の順に展開。
- ・令和元年11月現在で④三谷地区も設置。



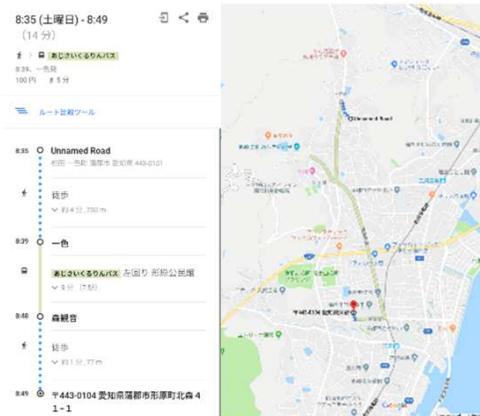
■ 目標を達成するために行う事業

※形原地区支線バス=フィーダー補助路線(交通空白)

網計画の目標	主な事業
交通ネットワーク網の維持確保・交通空白地解消	にしがま線(名鉄西尾線・蒲郡線)げんき戦略の推進、地域主導による地元協議組織の組成(形原・東部・西部・三谷地区)等
関係者間の連携強化	新たな支線バスの運行協議(東部・西部地区)、高齢者タクシー運賃助成事業等
持続性ある公共交通の確保	小学生乗り方教室、バス乗車体験、広告収入の確保、オープンデータ化(GTFS-JP)対応等

■ 今年度実施した主な取組

● 形原地区支線バスのGTFS-JP(オープンデータ化)



東部地区についても
R1.10~対応済み

● 形原地区支線バス 目標達成イベント



● 車体・バス停への広告



● 小学生等の利用促進



● 各地区での運行協議



■市の交通ネットワーク全体の評価【鉄道】

- 名鉄西尾・蒲郡線の利用推移

		H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
西尾~蒲郡	小計(千人)	3,072	3,120	3,242	3,173	3,333	3,359	3,391	3,409
	前年との増減数		48	122	▲69	160	26	32	18
吉良吉田~蒲郡	小計(千人)	1,547	1,540	1,590	1,540	1,582	1,598	1,601	
	前年との増減数		▲7	50	▲50	42	16	3	

- 平成30年度は対前年比0.5%の増加（蒲郡線部分 = 1,611千人・0.6%増）。**目標達成。**
- 市民主体の応援団等による利用促進活動により利用者は増加傾向。
- 沿線地域の人口減少を食い止める対応、利用促進、地域外からの誘客推進が重要。

■市の交通ネットワーク全体の評価【路線バス】

- 蒲郡市 支援路線バスの利用推移

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
小計	173,082人	175,952人	211,575人	218,778人	191,739人	179,548人	189,265人	163,808人
前年との増減数	-	2,870人	35,623人	7,203人	▲27,039人	▲12,191人	9,717人	▲25,457人
前年比	-	102%	120%	103%	88%	94%	105%	87%

- 平成27年4月、平成29年4月の2度にわたり、ダイヤ改正を実施。
- 平成29年度と平成30年度の比較では、189,265人から163,808人になり、25,457人減少(87%)。**目標未達。**
- 減少要因としてダイヤ改正の影響があると想定され、丸山・蒲郡線が大きく減少。
西浦・病院循環線も微減。引き続きモニタリングを継続し、評価・改善に繋げていく。

■ ネットワークに接続する「フィーダー系統の評価」 (形原地区)

- 形原地区支線バスの利用推移

	平成28年度 (H27/10~H28/9) 利用実績	平成29年度 (H28/10~H29/9) 利用実績	平成30年度 (H29/10~H30/9) 利用実績	平成31年度 (H30/10~R1/9) 目標	令和元年度 (H30/10~R1/9) 利用実績
形原地区支線バス 年間利用者数	3,549人	4,517人	5,225人	5,150人	5,124人
1便当たり (年間924便)	3.8人/便	4.9人/便	5.7人/便	5.6人/便	5.5人/便

- 生活交通確保維持改善計画に掲げられた目標値についての評価

※網形成計画での目標：人口変動率対比でプラスを目指す

形原地区人口1%減 (H30/10/1 14,960人 ⇒ R1/10/1 14,839人)

- 目標値に対して、利用実績は下回った (対前期比98.0%)。
- 毎年多くの利用があるあじさいまつり期間の運行日が、今年度は天候不順のため大幅な利用者減。この影響がなければ、概ね順調な利用実績だったと判断。
- 地域全体の公共交通網を踏まえた評価 (幹線系統への影響) →引き続き鉄道の利用促進に寄与。
 - 鉄道 (名鉄三河鹿島駅・形原駅) に接続。
乗降者数 (H30/4~H31/3) は、三河鹿島駅で303人/年 (全体の6%)、形原駅で173人/年 (3%)。全停留所の平均乗降者数159人/年を上回り、利用者の多い停留所で鉄道利用に貢献。
- 補助対象事業について適切に事業が実施できたか→適切に事業実施
 - あじさいまつり時の増便対応など適切な運行が行われ、大幅な遅延・積み残しなどの問題は生じていない。

■ その他目標を達成するために行う事業について

指 標	目 標	平成30年度実績	評 価
地元協議組織の設置箇所数	3箇所	3箇所	達成

- 交通空白地の対応
 - ・ 東部地区・西部地区で検討が進み、令和元年10月、令和2年1月に事業化。
 - ・ 令和元年10月31日に三谷地区公共交通協議会が正式に発足し、4番目の事業構築の議論が進行中。大塚・塩津地区などのその他地区での説明会の実施も並行して行い、さらなる交通空白地の対策が進んでいる。
- 公共交通利用促進事業→適切に実施
 - ・ 公共交通事業の推進にかかる行動『指針』の改定を行い、利用促進の重要性や収支率を含めた事業の総合評価の在り方について法定協議会で共有。
 - ・ 形原地区公共交通協議会の取り組み（利用促進施策の実施、停留所標識広告掲載事業の実施による収支率の改善など）を確認することで、地域の主体性を総合評価し、適切な事業継続が進められている。
 - ・ 名鉄西尾・蒲郡線線の利用促進イベントを実施し、鉄道の存続に向けた取り組みが継続して行われている。

<自己評価から得られた課題>

①鉄道の状況

- ・ 利用者は増加傾向（対前年比0.6%増）にあり目標達成しているものの、にしがま線元気戦略の目標設定は達成できていないため、さらなる利用拡大に向けた取組が必要である。

②路線バスの状況

- ・ 平成29年度（4-3月）が対前年比で増加に転じたものの、平成30年度は25,457人（87%）減少し、再度減少に転じた。平成31年4月1日のダイヤ改正の影響等が想定されるため、現行ダイヤの周知を進めるなどの利用拡大に向けた取り組みが必要である。

③ネットワーク・交通空白地対応

- ・ 交通空白の懸念のあった「東部地区・西部地区」の事業化が進められ、網形成計画で定めた目標値（3地区での協議組織の設立）が達成された。4地区目・三谷地区の組織設置も行われ、引き続き、事業化の拡大を進める。

④フィーダー系統に関する課題

- ・ 形原地区支線バスの利用者が初めて利用者が減少した。前年比101人（便当たり0.1人）の減少であるが、毎年利用者の多かったあじさいまつり期間の運行日の天候不順の影響による。夏季の猛暑や天候不順の影響は排除できないこと、利用者の固定化が懸念されることをふまえ、新規需要の開拓についての取り組みが求められる。
- ・ 便別の状況では、6便の内、最初と最後の便の利用が少ないことや、停留所別乗降客数で年間50人未満の利用が少ない停留所があるなど、部分的な事業改善と利用促進活動の実施を検討する必要がある。また、フィーダー系統の事業継続面の自己評価項目として収支率（2割）を設定しており、その達成に向けて、車両・バス停の広告収入の拡大を目指す必要がある。



<今後の取り組み>

①鉄道の対応

- ・ 市民まるごと赤い電車応援団等による利用促進活動を継続実施。

②路線バスの対応

- ・ 交通事業者との協議を行い、利用者減の食い止めと現行のサービス水準の維持を目指す。（バスマップの作成を検討）

③交通空白地対応

- ・ 東部地区・西部地区での運行開始後のPDCAの実施による適正運行と、三谷地区での事業化を目指す。

④フィーダー系統の対応

- ・ 複数のフィーダー系統の事業化をふまえ、相互利用を促進する施策（共通回数券・1日乗車券の導入、認知度を高めるPRイベント・体験会等の実施）を検討し、施策の実施を目指す。
- ・ 形原地区・・・利用の少ない停留所の見直し、新規需要の開拓のための利用促進策（イベントツアー等）の検討等に取り組む。

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

蒲郡市地域公共交通会議

平成25年3月1日設置

フィーダー系統 平成30年6月20日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>○平成29年度二次評価 網形成計画の評価を行うための路線バス、支線バスの利用者アンケート調査を的確に実施しています。アンケートの調査結果を基にルート・ダイヤの見直しや利用促進策を既に協議しており、利用者の増加や収支率の改善につながれることを期待します。</p>	<p>前年度に引き続き、下記項目を実施</p> <p>○形原地区協議会の定期開催事業のモニタリング、事業改善・利用促進活動についての協議を地域主導で行う。</p> <p>○収支率改善のための対策 バス停留所看板の広告収入を得るための要綱を作成した。</p> <p>○利用促進活動 形原地区公共交通協議会の主導による下記活動を実施。 ・ぬりえ大会の実施等</p>	<p>○PDCAの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形原地区公共交通協議会にて利用促進に向けた取り組み内容を協議するとともに、定期的に事業評価を継続して実施する。 <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会で、ぬりえ大会の実施・年間5千人達成イベント等の利用促進策を含めた事業計画を企画・実施。 ・年度末の協議会で、利用実績や事業実施状況をふまえた事業評価の実施。 ・モニタリング結果を交通会議で報告。 ・利用者減の事実をふまえ、利用の少ない停留所の見直しと近隣地区のPR活動の実施、新規需要の開拓のためのイベントツアーの開催を検討。

※令和元年度 評価対象 (令和2年2月18日 愛知豊橋地区)

■ 鉄道への対応（市民まるごと赤い電車応援団等）

- 1) 利用促進大会（R1/11/9）
 - ・ 沿線生徒による意見発表
 - ・ 「にしがま線を描く会」の開催とその表彰
 - ・ 名鉄運転士なりきり写真撮影、グッズ販売など
- 2) 赤い電車応援！駅前コンサート開催（R1/11/17）
 - ・ 蒲郡市ジュニア吹奏楽団&市内中学校吹奏楽部の演奏、鹿島こども園の園児たちの踊りの披露

○鉄道：にしがま線の取り組み

利用促進大会（生徒による意見発表等）

駅前コンサート



■ 路線バスの対応

- 1) 小学校乗り方教室
 - ・ バスに関するクイズや乗車体験
- 2) 蒲郡まつりにおける乗車体験
 - ・ 制服での運転手体験

○路線バスの取り組み

小学生乗り方教室

蒲郡まつり乗車体験



■ 交通空白・フィーダーの対応

- 1) 東部地区公共交通協議会の取り組み
 - ・ 平成30年8月21日 地区協議会設置
 - ・ 令和元年10月1日 定時定路線型支線バスの運行開始
- 2) 西部地区公共交通協議会の取り組み
 - ・ 平成30年11月29日 地区協議会設置
 - ・ 令和2年1月4日 定時定路線型支線バスの運行開始
- 3) 形原地区公共交通協議会の取り組み
 - ・ 地区協議会の定期開催（モニタリング検討等）
 - ・ 市より特別感謝状の受賞
 - ・ 形原地区3保育園合同めりえ会の実施（H30/11/7）
 - ・ 年間利用者数5,000人の達成（記念品授与）
 - ・ 第14回モビリティ・マネジメント会議にて活動報告

○フィーダー：形原地区の取り組み

めりえ大会（左）

5000人達成イベント

MM会議での報告



○フィーダー：東部地区・西部地区の取り組み

協議風景
（左）

出発式テープカット
（右）

